

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		シニアクラブ活動助成事業		担当課 介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間 年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別 法定＋任意
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進		市民協働 共催
予算科目コード		01-030103-02 補助	根拠法令・条例等	老人福祉法，老人クラブ活動等事業実施要綱，老人クラブ等事業運営要綱，守谷市シニアクラブ助成事業補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 市シニアクラブ連合会の主な事業としては、元氣わくわくスポーツ大会、シニアスポーツ大会、研修会等を企画立案し実施する。市の主な役割は、市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブへの補助金支給・各種スポーツ大会・役員会・会長会議・研修会・その他高齢者が生きがいや健康づくり事業などの企画等を支援する。
昭和37年老人福祉法制定に伴い創設された事業である。市民が高齢期で過ごす時間に生きがいを持ち安心して楽しく充実した生活を送ることが求められている。シニアクラブは地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、国の老人クラブ活動等事業実施要綱に基づき単位シニアクラブ、市シニアクラブ連合会、県老連と連携を図るとともにシニアクラブ等に対する支援に努め、必要に応じて助言指導を行うものとする。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市シニアクラブ連合会及び単位シニアクラブの活動をより一層活性化し、高齢者の生きがいや健康づくりを推進する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
会員の加入状況やクラブ数の増強	5月 元氣わくわくスポーツ大会 6月 高齢消費者被害防止キャンペーン 7月 関東甲信越静岡ブロック老人クラブリーダー研修会（東京）※市の取組み事例発表 9月 茨城県老人クラブ大会 9月 文化交流会（健康マージャン大会） 10月 茨城県ねんりんスポーツ大会 10月 シニアスポーツ大会 11月 視察研修会 3月 文化交流会（健康マージャン大会）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	随時 役員会，単位シニアクラブ会長会議 シルバードライバーセミナー 他課主催の各種研修会 茨城県老人クラブ連合会主催の各種会議 各単位シニアクラブにおける会員増強活動
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	会員増加見込分の単位クラブ助成金の増となる。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度を取組（評価、課題への対応）
シニアクラブの幅広い事業展開への支援を行い、会員の増強と仲間づくりの推進を図るとともに、リーダーとなる人材育成の支援を行う。 。 今後は、文化交流会のほか、スポーツ大会の企画・運営にも会員が主体となって携わっていくように働き掛ける。	高齢消費者見守りサポーター養成講座を開催し、詐欺被害・消費者トラブルの情報提供や消費者被害の相談に応じて関係機関に繋げる役割としてのサポーターを育成した。（受講者数：58人） 文化交流会「健康麻雀大会」をシニアクラブ会員が主体の実行委員会による企画・運営により、年2回実施した。（参加者数：220人） 視察研修については、シニアクラブ役員会において企画・検討し、防災施設において、日常生活に役立つ災害体験学習を実施した。（参加者数：49人） シニアスポーツ大会の実施種目については、シニアクラブ役員会に

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
シニアクラブ会員数（人）	820.00	903.00	956.00	970.00	1,000.00
スポーツ大会参加者数（人）	614.00	674.00	593.00	650.00	650.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	会員自らが企画・運営を行う文化交流会「健康麻雀大会」事業が活発に展開されている。スポーツ大会や文化交流会等により、会員相互の交流が図られている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化。 □ 統合 □ 廃止・終了	シニアクラブの幅広い事業展開への支援を行い、会員の増強と地域における仲間づくりの推進を図るリーダーとなる人材育成を行う。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	2,101	2,478	2,419	2,665	2,665
	国・県支出金	322	454	520	730	730
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	2,024	1,407	0	0
	一般財源	1,779	0	492	1,935	1,935
正職員人工数（時間数）		873.00	560.00	873.00	0.00	0.00
正職員人件費		3,579	2,296	3,645	0	0
トータルコスト		5,680	4,774	6,064	2,665	2,665

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		敬老祝金支給事業		担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	昭和43年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進		市民協働	
予算科目コード		01-030103-06 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
老人福祉法第5条の規定において、老人週間（9月15日～21日）において、敬老意識の高揚と高齢福祉に対する理解を促すことが推奨されている。	高齢者に心から敬意を表し長寿をたたえるため、人生の節目にあたる年齢時に祝金を支給する。 （対象年齢・金額） 88・99歳：5,000円 100歳以上：10,000円
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
高齢の節目を迎えた方々に、長寿の喜びと今後も健康でおられることを感じていただく。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
これまで支給対象者の基準（77歳の廃止）や支給金額を見直してきたが，高齢者数の進展により今後も対象者数が増えることが予想され財政負担が増加する事業である。	随時 高齢者数の推移・社会情勢等を注視していく。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
長寿を祝福することを目的とした事業であり，支給対象者及び金額については，これまで見直しを行っており，現状では妥当であると判断する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	支給対象者の増加のため。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
対象者への支給方法を現在、民生委員へ依頼して手渡しにより行っているが、今後、支給方法の見直しの検討が必要である。	支給方法は、単に贈呈するだけでなく、安否確認や見守りといった効果も期待できる民生委員による手渡しが適当と判断した。今年度も88歳・99歳・100歳以上の方に祝金を支給した。（100歳の方は、市長からの贈呈） 88歳：189人 99歳： 16人 100歳： 11人 101歳以上： 12人 合計：228人

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
支給人数（人）	549.00	213.00	228.00	300.00	300.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	高齢者に敬意を表し、長寿をたたえるために人生の節目に当たる年齢時の祝金の支給である。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持	☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	長寿を祝福する目的の事業であることから事業の維持は妥当であると考え、平均寿命が伸びていることから今後は支給対象者及び支給総額の増加が見込まれる。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	1,120	1,161	1,257	1,606	1,606
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	1,161	0	0	0
	一般財源	1,120	0	1,257	1,606	1,606
正職員人工数（時間数）		161.00	104.00	59.00	0.00	0.00
正職員人件費		660	426	246	0	0
トータルコスト		1,780	1,587	1,503	1,606	1,606

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		高年齢者就業機会確保事業	担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成16年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード		01-030103-08 補助	根拠法令・条例等	高年齢者等の雇用の安定等に関する法律 守谷市高年齢者就業機会確保事業費等補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
高年齢者等の雇用の安定等に関する法律において、「国や地方公共団体は、実情に応じて必要な援助、雇用の機会や就業の機会の確保等を図るために必要な施策を推進するように努めなければならない。」と定められている。	シルバー人材センターの事業運営に要する一部費用を補助金として交付する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
シルバー人材センターは、60歳以上の高齢者の労働能力や技能を活用し、地域社会に密着した短期的な就業の機会を提供している。 シルバー人材センター事業の円滑な推進により、高年齢者の健康で生きがいのある生活の実現と、地域社会への参加を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
シルバー人材センターの健全運営と会員の就業機会確保のために，センターの就業先拡大やサービス拡充が課題となっている。	平成29年度～平成30年度 総合事業の検討に当たり，業務に携わるセンター会員を対象に，介護保険制度や高齢者の現状についての基礎知識を習得する機会を設定するなどして，センター事務局と連携して総合事業の事業者としての活動の具体化を目指す。 随時 事務局との定期的な意見交換の場を設け，センターの事業状況把握と，運営への助言指導に努めていく。
改善内容（課題解決に向けた解決策）	平成29年度 家事援助制度研修会（H29.12/2・H30.2/3）
センター事務局と連携してサービス拡充を図る。なお，サービス拡充については，高齢者の増加により，住み慣れた地域での自立した生活が課題であり，センターを活用した介護予防・日常生活支援総合事業の展開を検討していく。そのために高齢者が求める生活支援サービス内容の把握も行っていく。 さらにセンター事業のPRを積極的に行うとともに，センターに対し，健全運営やサービス拡充についての助言指導を行っていく。	平成30年度 介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービスAの導入に向けた委託料・活動内容等の検討
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	現在のセンター運営状況から，目的達成のためには維持が妥当である。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
高齢者の増加により、様々なニーズが見込まれることから、見守りや生活支援等の事業展開が見込まれる。	対応できる事業は限られているが、利用される方の要望にできる限りの対応に努めるよう指導した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
就業延人数（人）	42,924.00	39,282.00	37,902.00	39,282.00	39,282.00
就業実人数（人）	355.00	327.00	306.00	327.00	327.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	事業の円滑な推進により、働く意欲がある高齢者の生きがいの充実と社会参加を図ることができる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	自立した健全な運営を継続するよう指導する。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	3,100	3,100	3,100	3,100	3,100
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	3,100	3,100	0	0
	一般財源	3,100	0	0	3,100	3,100
正職員人工数（時間数）		14.00	15.00	13.00	0.00	0.00
正職員人件費		57	62	54	0	0
トータルコスト		3,157	3,162	3,154	3,100	3,100

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		いきいきプラザげんき館施設維持管理事業		担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成12年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	任意的事務
	基本事業	生きがいつくりの機会と社会参加の促進		市民協働	
予算科目コード		01-030103-10 単独	根拠法令・条例等	守谷市いきいきプラザ・げんき館の設置及び管理に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
高齢者の生きがいつくりの機会と社会参加促進のための介護予防施設の拠点となる「いきいきプラザ・げんき館」を設置した。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
適切な施設の維持管理を行い、利用者に安全と快適な環境を提供する。 。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
施設の老朽化に伴う修繕箇所が増加しており，また，備品等も故障等が生じてきている。	随時及び定期的 社会福祉協議会からの施設状況聴取を行う。 H30年度修繕箇所： トイレ詰り（8月） 電気ブレーカー（1月）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
げんき館を運営する社会福祉協議会との連絡を密にして，施設状況は常に把握し，必要性や優先度を考慮して，計画的に必要な最小限の修繕・改修を行っていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■ 増加 □ 維持 □ 削減	計画的に修繕・改修を行う。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
老朽化による外壁の塗装，水回りなどの修繕及び空調設備等の点検を計画的に進める。	定例業務として，施設の床・窓ガラス清掃，エレベーター・自動ドア・給茶機・消防設備の保守点検を実施した。また，臨時業務として，トイレ詰り・雨樋の清掃を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
施設の不具合での事故発生件数（件）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	効率的で適切な施設維持管理を継続していく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☒ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	施設の長寿化及び老朽化による重大な事故を事前に防止するため、定期的な点検等を行い施設状況を常に把握し、計画的な修繕・改修等を行っていく。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	2,253	3,061	2,428	2,550	13,600
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	2,951	211	100	100
	一般財源	2,253	110	2,217	2,450	13,500
正職員人工数（時間数）		17.00	29.00	39.00	0.00	0.00
正職員人件費		70	119	163	0	0
トータルコスト		2,323	3,180	2,591	2,550	13,600

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		サロン活動支援事業	担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成12年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	事業協力
予算科目コード		01-030103-13 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 地区公民館・集会所・自治会館・学校の余裕教室などを利用して，運営ボランティアにより，お茶飲み・音楽・体操・趣味などの活動を行い，地域社会での高齢者同士のつながりを深める。 開催数：週1回～月2回程度 利用時間：午前10時～午後3時（各サロンで異なる） 利用料：無料（但し，昼食代や活動・材料費等は自己負担）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味，スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
①平成31年度に現在の活動場所が使用不能になる団体がある。 （中央公民館3団体，守谷小学校1団体，御所ヶ丘小学校1団体） ②小規模サロンにおける参加者の減少 ③視察研修の費用対効果	5～11月 単独サロン視察研修（3回バス3台） 10月 平成31年度の公民館等使用申請 10～11月 合同サロン視察研修実施（3回バス7台） 11月 来年度の備品要望聴取 H31年度の学童施設等の利用検討 1～2月 全サロンへアンケート実施 3月 運営ボランティア会議 ・アンケート結果を資料として意見交換会 ・他事業の案内（出前講座等） ・来年度の事業実施方針について報告
改善内容（課題解決に向けた解決策）	随時 ・予定表や掲示物等の作成支援 ・消耗品やお茶等の購入及び配布
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☒ 削減	新設サロンのための備品（貸出分含む）の購入費用等は維持する必要があるが，既設サロンからの備品・消耗品の支給要望内容を精査しコスト削減をしていく。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度の実績（評価、課題への対応）
サロンは、地域の方々の互助による運営であるため、継続した運営を図るために地域の人材育成に努める必要がある。	サロンが1箇所（あたご町会サロン）新設された。 視察研修については、防災施設での災害体験、リサイクル工場見学を企画し、日常生活に役立つ体験型の学習を実施した。 サロンの周知については、市ホームページへ活動を紹介したり、ケアマネージャーや民生委員、窓口来庁者に対し、サロン活動を紹介したチラシを配布して周知を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
参加人数（人）	781.00	1,228.00	1,255.00	1,300.00	1,400.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	地域における居場所、交流の場づくりを支援することにより、生きがいがづくりや介護予防につながっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■拡大 □縮小 □維持	□改善・効率化 □統合 □廃止・終了	運営開始から長い期間が経過したことにより発生している課題（運営ボランティアの後継者不足）について、実情把握と解決に向けた取組を進める。また、サロンのない空白地域については、まちづくり協議会等へ開設を呼び掛け、サロンの設立に向けた支援を行う。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	879	1,075	1,179	1,124	1,300
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	1,075	653	0	0
	一般財源	879	0	526	1,124	1,300
正職員人工数（時間数）		512.00	179.00	313.00	0.00	0.00
正職員人件費		2,099	734	1,307	0	0
トータルコスト		2,978	1,809	2,486	1,124	1,300

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		地区敬老行事助成事業	担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち	計画期間	平成29年度～
	施策	高齢者福祉の推進	種別	任意的事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-030103-20 単独	根拠法令・条例等	守谷市地区敬老行事助成金交付要綱	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
老人福祉法第5条で、「老人週間（9/15～9/21）において老人の団体その他の者によってその趣旨にふさわしい行事が実施されるよう奨励しなければならない」と定められている。 長年にわたり社会に貢献されてきたことに敬意を表すために、市主催で高齢者を一堂に集めて敬老会を実施してきたが、近年は敬老の意図は伝わっているが費用や出席率の面から事業の見直しが求められていた。	地域の方々により地域の実情に応じた自主的な催しや地元のイベント等との共催により、高齢者を敬い、地域とのつながりになる事業について、助成金を交付する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
高齢者を敬い、高齢者と地域とのつながりづくりや世代間交流による絆づくりを形成する。	
（参考）基本事業の目指す姿	
仕事や趣味、スポーツ等の生きがいをもつ高齢者を増やす。 地域活動などに参加する高齢者を増やす。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
平成30年度は市内12団体から助成金交付申請があった。敬老の意を表するとともに、高齢者と地域住民・異世代との繋がりをづくりのために、各地域で特色ある行事が展開された。 ①運用の課題 助成限度、助成要件（行事内容、助成経費、高齢者参加率）、実施主体における行事参加者の把握や開催のための労力負担、行事運営のノウハウ ②その他の課題 実施のない地域での開催、行事に参加できない敬老対象者への対応	4月 4/10号広報（H30年度事業の制度周知） 4/25号広報（市長あいさつ） 8月 8/10号広報（各地区開催の周知：みずき野、北守谷地区） 9月 9/10号広報（各地区開催の周知：守谷Aブロック、Cブロック） 9/25号広報（各地区開催の周知：守谷Bブロック、高野地区） 8～12月 各地区で敬老行事を開催 12～1月 各団体にアンケートを実施 2月 広報（各地区実施状況報告） ～3月 まちづくり協議会の設立状況に応じて、H31年度の対象地域を決定。 対象地域における補助制度について検討、 4月 広報（H31年度事業の制度周知）
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①実施団体への事業に対するアンケートの実施を行い、次年度以降の事業改善を図る。 ②過去2年度における各地域の実施例を提示し、未実施地域への実施に向けた支援を行う。アンケート結果等から助成経費について再検討する。	随時 ・各地区からの実施に向けた相談 ・申請受付、決定通知 ・実績報告受付、補助金の支払 ・H31年度事業の検討（市民協働推進課とも協議）
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	行事未実施の地域があることや平成30年度に昨対比で参加者数が増加している地域があることから、市内全域実施を想定した場合には、本年度実績よりコスト増が見込まれる。（なお、平成31年度から「まちづくり協議会」が設立される地域については、地区敬老行事に対する助成は、まちづくり協議会活動支援交付金（市民協働推進課）により対応することとなる。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
未実施地区に対する事業実施に向けた働き掛けや支援を行う。	各地区において地域福祉活動計画実行委員会や自治会等の主催により、各地区様々な特色のある敬老行事が開催された。 ・実施地区数 122/158地区（H29：115/158地区） ・実施率 77.2%（H29：72.8%） ・参加者数 2,752人（H29：2,489人） ・75歳以上 977人（H29：836人）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
敬老行事開催団体数	0.00	18.00	12.00	7.00	7.00
75歳以上の参加者数	0.00	836.00	978.00	1,000.00	1,100.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	地域で実施することにより、身近な場所で高齢者が参加でき、高齢者の外出と地域住民とのネットワークづくりの推進が期待できる。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 □維持	□改善・効率化 □統合 ■廃止・終了	高齢者と地域とのつながりづくりや世代間交流による絆づくりを形成していく。 助成金については、まちづくり協議会が設立された地区に対しては、「まちづくり協議会活動支援交付金」による支援に移行する。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	0	2,620	2,211	3,237	3,400
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	2,620	0	3,237	0
	一般財源	0	0	2,211	0	3,400
正職員人工数（時間数）		0.00	600.00	230.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	2,460	960	0	0
トータルコスト		0	5,080	3,171	3,237	3,400

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		介護支援ボランティアポイント事業		担当課	介護福祉課
総合計画	政策	健やかに暮らせるまち		計画期間	平成30年度～
	施策	高齢者福祉の推進		種別	任意の事務
	基本事業	生きがいづくりの機会と社会参加の促進		市民協働	事業協力
予算科目コード		04-030201-03 補助	根拠法令・条例等	介護保険法第115条の45第1項第2号に規定する地域支援事業	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 市の開催するボランティア講座を受講し、ボランティア登録をした高齢者は、受入施設として登録をした介護保険施設等でボランティア活動を行う。その活動に対してポイントを付与し、申請によりポイントを転換（口座への振込若しくは善意銀行への寄付を選択）し還元する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
（参考）基本事業の目指す姿	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①受入施設の求めているボランティア活動の正確な把握 ②事業の初動における既存ボランティア団体の参加，潜在的な対象者への情報伝達	8月 市内の介護福祉施設へアンケート実施 11月 介護福祉施設への説明会 11～12月 要綱策定 1月 庁議・議会への説明 1～2月 受入施設の確定，制度の周知 4月 ボランティア講座開催，ボランティア登録 5月 ボランティア開始
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
①介護福祉施設向けの説明会実施。事業概要の説明と併せて，施設のより具体的なニーズを把握する。 ②ボランティア協会等への説明会実施，広報による市民への周知	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
■増加 □維持 □削減	ボランティア活動を通じて社会参加する方の増加が見込まれる。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
平成31年度から、高齢者の社会参加や健康づくり、生きがいを支える新しい仕組みとして「守谷市介護支援ボランティアポイント制度」事業を開始するにあたり、要綱の策定、介護保険施設や既存ボランティア団体への説明を実施。	高齢者が行う介護保険施設でのボランティア活動を対象としてポイントを付与・還元する介護支援ボランティアポイント制度を構築した。 要綱の策定、介護保険施設や既存ボランティア団体への説明を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
ボランティア登録者数	0.00	0.00	0.00	50.00	50.00
ボランティア受入施設数	0.00	0.00	0.00	14.00	27.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	高齢者の健康づくり・生きがいづくりや地域ボランティア人材の確保・育成を行う。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■拡大 □縮小 □維持	□改善・効率化 □統合 □廃止・終了	平成31年度からポイント制度の運用を開始する。 ボランティア講座受講後、登録を行い、市指定の介護保険施設でボランティア活動を行う。 貯まったポイントは、換金又は善意銀行へ寄付することができる。 今後、全市民を対象とした市の総合ポイント制度「もりやマイレージ」の運用が予定されていることから、ポイントの単価や還元方法等について調整を図っていく。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	0	0	0	842	1,000
	国・県支出金	0	0	0	247	300
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	381	450
	一般財源	0	0	0	214	250
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	282.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	1,177	0	0
トータルコスト		0	0	1,177	842	1,000